

流通とS C・私の視点

2018年12月31日

視点(2255)

情報主軸経済時代とデジタル歴とは!!

(ICT&ネット市場編)

アメリカの経済は1920~1970年(50年間)はモダン消費経済であり、経済の主軸は「製造業(経済)」、副軸は「金融(経済)」でした。

その後1970年のモノ離れ、1971年の金本位制の廃止により、1970~2020年(50年間)の金融を主軸、情報&デジタルを副軸とする「金融経済の時代」でした。しかし、2008年のリーマンショック以降の量的かつ質的超金融緩和が終焉を迎えつつあり、2020年以降は「情報&デジタル」を主軸、「科学・理念・感性」を副軸とする「情報&デジタル経済」の時代になります。

そこで、アメリカを牽引する副軸から主軸へと進化した「情報&デジタル」の歴史は次の通りです。

ステップ		内 容		摘要欄		
第1期		1985年以前	IBMを中心とする大型汎用型コンピューター時代	ポスト モダン 消費経済	金融 主軸・情報 & デジタル 副軸経済	不況 景気経済
第2期		1986~ 1994年	マイクロソフトとIBMのパーソナルコンピューター時代 (マイクロソフト1975年設立・1981年に法人化)			
第3期	Web 1.0 (ホームページ 時代)	1994~ 2000年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTバブル始まる(ドットコムブーム) ・1994年 アマゾン・ドット・コム登場 ・1995年 ウィンドウズ95 登場 ・1994~2000年までICTバブル ・1997年 アマゾン上場 ・IPO(新規上場)ブーム ・2000年 ICTバブル崩壊(アマゾン株暴落) 	ニユー モダン 消費経済	金融 主軸・情報 & デジタル 副軸経済	好況 景気経済
第3期	Web 2.0 (SNS時代)	2000~ 2008年	<ul style="list-style-type: none"> ・2004年 グーグル上場(検索閲覧システム) ・2004年 フェイスブックが登場(SNS) ・2008年 アイフォン3G登場(スマートフォン) ・グーグルもアンドロイドでスマホ規格投入(サムスンも加わる) ・2008年リーマンショック(ファンドバブル崩壊) ・配車アプリのウーバー・テクノロジーズや宿泊予約サイトのエアビーアンドビーの登場 			
第4期	Web 3.0 (ブロック チェーン時代)	2008~ 2020年	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年 フェイスブック上場 ・グーグルは自動運転一般公開 ・2014年 アリババ上場 ・AI(人工知能)やIoT(ビッグデータ)が登場 ・超金融緩和時代(質的・量的緩和)→2015年より正常化開始 			
第5期		2020年 以降	基軸 (システム) <ul style="list-style-type: none"> ・AI・IA(知能増幅)&バイオテクノロジー(生物工学) ・IoT&ビッグデータ ・プラットフォーム&ブロックチェーン ・RPA(ロボテック・プロセス・オートメーション)&スマートファクトリー 			
			ツール <ul style="list-style-type: none"> ・5G ・量子コンピューター ・3Dプリンター ・スマホ(モバイル) ・GPS ・センサー ・IDカード ・CG&VR, AR, MR ・AIスピーカー ・無線技術 ・音声認識&画像認識 ・ICカード&QRコード ・フィンテック ・CASE ・クラウド ・Eコマース 			

アメリカ経済は、1970~1990年までは金融経済のマイナス面のウエイトが高くスタグフレーション(不況下の物価高)でしたが、1991年からはICT技術と金融が一体化したICTバブル(IPO)と2000年のICTバブルの崩壊、2001年からは、住宅開発と金融が一体化したファンドバブル(デリバティブバブル)と2008年のファンドバブルの崩壊(リーマンショック)、さらに2009年から超金融緩和バブルと2020年(?)の超金融緩和の終焉(?)をくり返しつつ、経済を1991年から2020年まで3倍以上に拡大しました。しかし、金融経済によるバブルとバブルの崩壊を繰り返して経済を拡大する時代が終焉しつつあります。

(株)ダイナミックマーケティング社⁷
代表 六 車 秀 之